

## 「ヴァーチャル訛り」としての四川普通話に対する考察

羅 子皓

### はじめに

特定の国或いは地域の言語使用について考察する場合、そこに使われる言語を「標準語」と「方言」に分類することが多いが、実際の言語使用の中では、「標準語」と「方言」の二元構造では処理しきれないグレーゾーンも存在しており、それが「訛った標準語」である。訛った標準語は元々標準語を話そうとしている話者が無意識に方言の影響を受けたことによる産物であるが、それが使われるにつれて社会的に認識されるようになり、一種の独立した「話し方」として認識されることもある。この現象は中国語の場合にかなり著しく表れている。中国では言語の地域による差異が著しいため、普通話という標準語がほとんどの地域に普及するようになった今日でも、標準語を完璧に話す人口よりも、何らかの度合いで訛った標準語を話す人口の方が圧倒的に多い。そこに各地域の訛った普通話が用いられるにつれて、(普通話という呼称に反して)特定の地域と結びつく「話し方」として認識されるようになる例も少なくない。さらに広東訛りの普通話を指す「広普」、雲南訛りの普通話を指す「馬普」など独自名称が定着する場合、それが一種の話し方として認知される度合いが特に高いと考えられる。本稿では1990年代以降にドラマ、映画、コントのなかで頻繁に表像されることによって広く認知された「川普」と呼ばれる四川訛りの普通話を取り上げて、その音韻的特徴のバリエーションと話者の地域意識との関係について考察したい。

### 1. 四川普通話

本稿の主たる研究対象である四川普通話は、「四川西南官話」と「普通話」の特徴を両方備えているため、ここではまず「普通話」、「四川西南官話」(すなわち俗にいう「四川方言」)と四川普通話の関係と違いを明らかにする必要がある。

現在中国で話されている普通話は「北京語の発音を標準に準じて北方官話を基礎とし、典型的な現代白話文著作を文法規範とする現代漢民族の共同語」(梁 1985: 1)である。そして西南地域に使われる方言として「西南官話」は「四川、重慶、雲南、貴州の4省・市のすべての中国語地域が含まれ、隣接する湖北、湖南、広西、陝西などの省・区の一部の県・市」に使われる方言の総称で、そのうちに四川、重慶に話されている方言は「四川西南官話」と呼ばれている。四川西南官話は語彙・文法・音韻の面において普通話と大きく異なっている。これに対して声調の面で普通話に近いが、語彙と分節音やその構成する音節の面である程度四川西南官話の特徴を示すのが四川普通話である。

表1では普通話、普通話、四川普通話と普通話の声調の異同が示されている。

四川西南官話と普通話は、共に4つの声調を区別し、共通の声調変化を経ているために、それぞれの調類の所属語彙はよく対応している。しかし、各声調の調値は分岐後に異なる変化を起こし、陽

平・上声・去声の3つの調類では上昇・下降が逆転する調値になっている。例えば、普通話の陽平は35で上昇であるが、四川西南官話の陽平は21、31で下降である。また、普通話では去声が51で下降調であるが、四川西南官話の上声は53で下降調である。ただし、普通話の上声調値214は四川西南官話の去声213、214のトレンドと似ている。

これに対し、四川普通話の陰平、陽平、上声、去声の調値はそれぞれ55、24、213、42である。これらの調値が普通話の調値と近いということがわかる。したがって音韻面における四川普通話の特徴は主として音節を構成する分節音に現れていると言える。

表1. 四川西南官話、四川普通話と普通話の声調<sup>1)</sup>

調類		調値	陰平	陽平	上声	去声
普通話			55	35	214	51
四川西南官話	四川成都方言 (王 1994)		55	21	53	213
	四川西南官話 (馬 1986)		44	31	53	213
	川東方言 (廖・梁・方 2013)		44	21	52	214
四川普通話 (廖・梁・方 2013)			55	24	213	42

(軽声と変調は含まれていない)

以上のように、声調において西南官話よりも普通話に近いというのは四川普通話の一つの特徴といえよう。ところが方言と普通話の間にある過渡的な領域に存在する「訛り」の範囲を精確に画定することは難しい。ただその中間的な特質を説明できるような定義づけはすでにされている。廖・梁・方(2013)は「川普」(四川普通話)を以下のように定義している。

“川普”主要指四川人由于受到某些语言要素及其配合关系、变化规律的影响而说出的不准确的普通话。这里的语言要素包括语音、词汇、语法等。

(「川普」は主に四川人がいくつかの言語要素とその協力関係、変合法則の影響を受けて発する標準ではない普通話を目指す。ここの言語要素は、音声、語彙、文法などを指す。)

廖・梁・方(2013) p.24

以上の定義は四川普通話の中間的な特質を捉えたという点において示唆的と言える。ところがこの定義が指し示す四川普通話を、話者の意図によってさらに細分化する余地もあると考えられる。上の定義は「四川人がいくつかの言語要素とその協力関係、変合法則の影響を受けて発する標準ではない普通話」と述べているが、実際に言語使用の場面の中では、普通話話しているつもりで四川西南官話の影響を無意識に受けて普通話から逸脱している場合(つまり無意識に現れる自然な訛り)と、四川西南官話の要素を意図的に普通話の中に取り入れるという二つのケースが観察される。

そして意図的に話される四川普通話の中にさらに二つのバリエーションが指摘できる。一つ目は四川出身の話者がより正確な標準語を話せるにもかかわらず、意図的に四川西南官話の要素を強調する過剰に訛る四川普通話である。例えば四川出身の司会者と役者がコントの中に四川人のキャラクターを演じる際に使う四川普通話(彼らが正確な標準語を話せることは彼らのインタビューや出演番組に

よって確認できる)は後者の意図的な表現に当てはまる。そしてもう一つのバリエーションは、他地域の人間が四川西南官話に対する断片的な認識に基づいて作り出し、表現する四川普通話である。本稿では基本的に廖・梁・方の定義を踏まえつつ、その中に存在する意図の違いに基づいて音韻的な側面から四川普通話の細分化を試みたい。

四川普通話を含む「訛り」の使用を意図の側面から分類する際に、田中ゆかり(2021)が指摘する「ヴァーチャル方言」の概念が示唆的である。

田中(2021)は方言を以下のように「リアル方言」と「ヴァーチャル方言」に分けている。

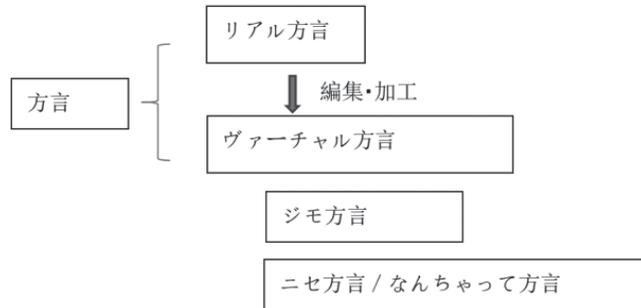


図1. リアル方言とヴァーチャル方言(田中2021:5)

田中(2021:4~7)は日本語を対象に、創作物に現われる「方言」や現実由来の「そだね」などの流行語も、「リアル方言になんらかの編集・加工が施された「ヴァーチャル方言(仮想の方言)」であると指摘している。田中氏はさらに「ヴァーチャル方言」をその使用に見られる土地との結びつきの強弱に基づいて「ニセ方言」と「ジモ方言」に二分しており、「[在来の土地のことは]という方言の根幹であるはずの「特定の土地との結び付き」から解放された用法を持つものを「ニセ方言」、そして「土地との結びつきの強い方言を編集・加工した「わかりやすく処理された地元の方言(ジモ方言)」があると指摘している。以上の理論的枠組みは方言内部に潜む多様性を照らし出すのに示唆的であるが、ここでの「ヴァーチャル」と「リアル」の区分は標準語と方言の間に位置する「訛った標準語」の中にも観察できるように思われる。

まず一番自然な形で存在する訛りを田中氏の「リアル方言」の概念を借りて「リアル訛り」と呼びたい。中国では新聞アナウンサーの話し方は典型的な普通話と呼べるが、実際生活の中では普通話の標準を逸した「訛った普通話」が随所に使われている。話者本人が「普通話」を話しているつもりであっても受動的に、無意識の内に語彙や発音の側面で方言の影響を受けた「訛った普通話」になる。この場合、話者の話す(したがって話者の考える)普通話は実際の普通話との間に差異が認められるため、本稿ではそれが一種の訛りとして自然発生したという意味で「リアル訛り」と呼びたい。

方言の場合と同じく、実際の言語使用の中に「リアル訛り」に対しても、それと対応する「ヴァーチャル訛り」の存在が観察できる。ある訛りが社会的に一種の話し方として広く認知されるようになると、他地域の人間がその訛りを意図的に模倣し、パロディーをする現象が起こる。そのような模倣は単に「ある地域の人間」の話し方を対象としているのではなく、キャラクター演出の際にとある属性を分かりやすく表現する道具の一つとして訛りを使う場合が多く認められる。例えばのちに触れる

連続ドラマ『我愛我家』では、四川普通話の使用は「出稼ぎ労働者」の人物像を造形するための役割語<sup>2)</sup>的な使い方をされている。四川出身の普通話話者の模倣自体が目的ではないので、四川普通話の特徴は、選択的であってよい。このように地域との結びつきよりもキャラクター演出の意図が強い訛りの選択的な使用を、本稿は「ニセ訛り」と名付ける。

一方で話者が自身の地域との結びつきを強調するために使う訛りがある。話者があえて実際の普通話能力に釣り合わない「過剰な」方言的な要素を出すことが場合である。例えば中国の小学校では普通話を喋ることが義務付けられているが、四川省出身の筆者の経験からすると、学校にいる学生たちが授業以外の場であえて訛りの濃い普通話を話すことが珍しくなく、その行為は地域共同体への帰属感を求める希望によって動機づけられていると考えられる。同じ傾向は、四川省の地域色を強調する映像作品の中にも認められる。この場合における訛りの使用も一種の演出行為としてみられることができるが、その演出の対象がその地域の人間それ自体になるため、地域との関連を強調するという意味で「ジモ訛り」と呼ぶことができる。

「ニセ訛り」と「ジモ訛り」の二つのヴァーチャル訛りは共に、普通話から逸脱した「訛り」を選択的に使用していることになるが、これらの言語的特徴は一致するのだろうか。

## 2. 四川普通話の音韻特徴

次節の論考の結果を先取っていうと、四川普通話に見られる四川方言の特徴は語彙よりも音韻の面において表現されている。四川普通話の音韻特徴の度合いは個体差が存在するが、それは基本的に四川西南官話の音韻特徴に包括されると考えられる。したがって本稿は四川普通話から音韻における方言的特徴を指摘する際に、梁（1985）による四川西南官話に関する研究を参照する。梁は音節の側面において、四川西南官話が普通話と異なる音韻特徴を声母と韻母という2種類に分けて以下のように示している。

- ① 四川西南官話と普通話の声母の異なりについて、以下のような4つの特徴がある。
- ② 四川西南官話には [ŋ] 声母があるが、普通話にはない。
- ③ 四川西南官話と普通話は両方とも [f], [x] 声母があるが、対応する単語が異なる。(例えば「花」は普通話では [xua] と発音され、四川西南官話では [fa] と発音される。反対に「風」は普通話で [fəŋ] と発音されるが、四川西南官話では [xuŋ] と発音される。)
- ④ ほとんどの地域の四川西南官話では普通話の [tʂ] [tʂʰ] [ʂ] [z] は [ts] [tsʰ] [s] [z] と発音される。
- ⑤ 普通話の声母では鼻音 [n] と側面接近音 [l] が区別されるが、四川西南官話ではほぼ区別せず、側面接近音 [l] しかない。(例えば、普通話の「那」の発音は na[nA] であり、四川西南官話は la[lA] である)

梁（1985）pp.5～67 参照

四川西南官話は普通話韻母と対応関係については、表2で8つの点をまとめて示す。このうち(1)は介音の有無による弁別が、声母 n, l に後続する場合に四川西南官話側で喪失することを示す。(2)

は、四川方言特有の韻母であり、前舌介音と後舌母音から成る。(3)(4)は四川西南官話での介音喪失と二重母音の単母音化による短母音韻母であるが、普通話にはない[o/e]の弁別がある。この弁別維持は、普通話の軽音の場合を含んでおり、普通話にはある軽音化が四川方言にはないことを示す。(5)、(6)は四川西南官話において、前舌母音 i[i], e[ə] の後に子音 -ng[ŋ] が現れず、n[n] との弁別を失う。(7)は普通話では韻母 eng[əŋ] 前の声母が b, p, m, f の時、四川では ong[uŋ] と発音される。(5)、(6)、(7)、(8)をまとめて見ると、四川西南官話で韻母末子音の [n] と [ŋ] の弁別が失われ、前母音の後の (5)、(6)、(8)では [n], 後母音の後の (7)で [ŋ] に統合して相補分布を成す。

梁の研究以外にも地域によって特徴的な音韻現象がある。例えば下の分析に出てくる普通話韻母 [an] が [æ<sup>n</sup>] と発音される例は、成都地域の方言にみられる特徴である。この特徴がヴァーチャル訛りとして取り上げられることは、成都方言がヴァーチャル訛りとしての四川普通話の中でより支配的な位置になるということを示唆している。

また、四川普通話について触れなければならないのが、その声調がほとんど普通話と一致しているということである。つまり四川普通話を大まかに「方言的な側面」と「普通話的な側面」との組み合わせとみなすなら、その「方言的な側面」は音韻、語彙、文法によって表されているのに対し、「普通話的な側面」は主に声調によって保証されている。これは声調言語としての中国語の中で声調はほかの側面よりも標準語と方言を区別する要因であることを裏付けている。

本稿では以上に梁が指摘する四川西南官話の声母4つ及び韻母8つの特徴を次節の材料を分析する際に「四川訛り」を認定する基準とする。

表2. 四川西南官話と普通話の韻母の対応<sup>6)</sup>

	四川	普通話
(1)	uei[uei]	uei[uei] (n[n], l[l])ei[ei]
(2)	üo[i <sup>39</sup> ][yo]	(l, j, q, x, n, Ø <sup>4)</sup> )üe[yɛ] (q, s, Ø)ü[y] (z, s)u[u]
(3)	o[o]	(b, p, m)o[o] (d, t, n, l, g, h, z, zh, c, ch, s, sh, r, Ø)uo[uo] (l, g, k, h, z, Ø)e[ɤ]
(4)	[e] <sup>5)</sup>	(d, t, l, g, k, , h, zh, z, ch, c, sh, s, r, Ø) e[ɤ] (b, p, m, zh, ch, c, s)ai[ai] (b, p, m)o[o]
(5)	in[in]	in[in] ing[iŋ]
(6)	en[ən]	(b, p, m, f, n, g, k, h, zh, c, ch, s, sh, ch, r, Ø) en[ən] (b, p, d, t, n, l, g, k, h, z, zh, c, ch, s, sh, r, Ø)eng[əŋ] (d, t, l, z, c, s)uen[uən]
(7)	ong[uŋ]	ong[uŋ] (b, p, m, f)eng[əŋ] (Ø)ueng[uəŋ]

(8)	ün[yn]	(j, q, x, Ø) ün[yn] (q, Ø) iong [yŋ] (q, Ø) ing[iŋ]
-----	--------	---

梁 (1985) pp.76 ~ 93 参照

### 3. 三種類の四川普通話

これまで内容において訛りの分類方法を提示し、また四川西南官話の特徴を借りて四川普通話の特徴の範囲を画定した。ここでは第1節において示した「リアル訛り」、「ニセ訛り」と「ジモ訛り」の分類を用いて四川普通話を三種類に分ける。

四川普通話が成立する時期は定かでないが、それが大規模に使われるようになったきっかけは改革開放後の大規模な人口移動だと思われる。改革開放後に中国では人的の移動が盛んになり、そこで四川人にもさまざまな状況（例えば四川以外の地域で就職する場合）の下で他地域の人と交流するために普通話を話す必要が生じた。この場合に話者にとって言語の中の四川的な要素はむしろ極力隠すべきであるが、言語能力や普通話に対する理解の不足によって母語による影響が表面に現れ、またその訛りが頻繁に使われる中で広範囲において認知され、「川普」という概念を出現させるに至る。このような普通話を話す需要から自然に生まれる四川人話者の訛りを、本稿は「四川普通話1」と記す。「四川普通話1」は、筆者が前文において提示した「リアル訛り」に該当する。

「リアル訛り」としての「川普」は受動的に生じた産物と言えるが、それが一種の話し方として認知されるようになると、この話し方の持つ四川という地域との結びつきに着目した新たな「ヴァーチャル訛り」的な用法が生まれる。「ヴァーチャル訛り」としての四川方言の使用は主に以下の二つのバリエーションがあると考えられる。

一つ目のバリエーションは非四川人によって表現される四川普通話である。前述のように、四川人の話す四川普通話は最初が四川人の標準語に対するイメージに基づくものであり、いわば四川人話者の「脱四川方言」の意図が込められた発話を、四川以外の地域の人々の中では逆にその四川的な要素に着眼し、これを四川人のマーカーとみなす受け止め方が生じる。同時に沿海地域に出稼ぎをする四川人が田舎者、出稼ぎ労働者などのステレオタイプと結びつける（河崎 2013: 82）と、四川訛りがそれらのステレオタイプを表現する際に役割語的な使い方をされるようになる。この場合、話者の四川訛りは地域との関連よりも特定の人物像の表現に重きが置かれる。この用法は前文で提示した「ニセ訛り」に該当するが、本稿は後の分析の中でこの用法を「四川普通話2」と記す。

そして二つ目のバリエーションは四川人が自ら「ジモ訛り」として発信する四川普通話である。この場合に四川人話者が四川普通話を話すのは標準語を話せないためではなく、四川人としてのアイデンティティを強調するためである。近年四川の地域色を強調する映画やコントなどの映像作品が多く見られるが、その中で役者が明らかに自身の普通話能力に釣り合わない濃い訛りを使う例が多々ある。その意図的にわかりやすくした訛りは前文で示した「ジモ訛り」に当たるが、後の分析では「四川普通話3」と記す。

その意図的にわかりやすくした訛りは前文で示した「ジモ訛り」に当たるが、後の分析では「四川

普通話3」と記す。

以上のように筆者は四川普通話を話者の地域意識によって三つに分類したが、そこに意識の違いに伴う形態上の違いは果たしてあるのか。以下は三種類の四川普通話の異同を示すために、四つの映像媒体を取り上げ、そこに見られる四川普通話の使用を音韻的側面から比べてみる。

## 4. 三種類の四川普通話の音韻特徴の比較

### 4.1. 「四川普通話1」の典型例及び音韻特徴

前述の通り、「四川普通話1」は四川人が状況に応じて普通話を正しく話す意識を持ちながら四川西南官話の影響を受けて生じる四川普通話である。「四川普通話1」には四川方言の特徴が認められても、話者は自分の話し方から地域性を表す意図は持っていない。本稿はその代表的な例として成都市の地方テレビ局で放送された交通番組「譚談交通」の一回を取り上げる（延べ語数：1107）。「譚談交通」は交通警察譚喬（四川省成都市出身）が成都市内に交通違反行為を取り締まりながら交通安全の教育を行う内容となっている。本稿で取り上げる回は2009年に放送された譚喬が過負荷の三輪車を乗る中年男性を取り締まる回である。この番組において警察の譚喬はテレビ司会の立場から四川訛りの普通話を用いており、またインタビューを受ける側の中年男性もテレビ放送を意識して普通話を話している。譚喬は比較的正確な普通話を話しているが、四川の西南官話の影響が認められるため、「リアル訛り」としての「四川普通話1」と見なすことができる。

該当映像に表される四川普通話の音韻特徴を以下のようにまとめる。（「→」の左側は普通話の発音、右側は話者の発音である。）

声母表現6項目：「 $\emptyset \rightarrow \eta$ 」1回、「 $\text{ʃ} \rightarrow \text{s}$ 」23回、「 $\text{tʃ} \rightarrow \text{ts}$ 」14回、「 $\text{tʃ}^{\text{h}} \rightarrow \text{ts}^{\text{h}}$ 」3回、「 $\text{n} \rightarrow \text{l}$ 」6回、「 $\text{x} \rightarrow \text{f}$ 」2回。その内、「 $\emptyset \rightarrow \eta$ 」は話者が普通話の零声母語に $[\eta]$ 声母をつけるという意味である。

韻母表現6項目：「 $\text{y} \rightarrow \text{o}$ 」2回、「 $\text{y} \rightarrow \text{au}$ 」3回、「 $\text{i}\eta \rightarrow \text{in}$ 」12回、「 $\text{ə}\eta \rightarrow \text{ən}$ 」4回、「 $\text{ai} \rightarrow \text{e}$ 」1回、「 $\text{u}\text{ən} \rightarrow \text{ən}$ 」1回。

上の譚喬は四川人の中でも比較的に普通話を正確に話せる部類である。では普通話能力が比較的到低い四川人の場合はどうなのか。ここで一例として中国のソーシャルメディア「抖音」（中国版ティックトック）において「四川会姉」（四川省南充市出身）というユーザーの動画を取り上げる。その動画の内容は主に高年者向けの動画制作方法の講座である。不特定の地域の高齢者層向けの動画であるため、話者は極力普通話を正確に話す意図を持つと考えられる。しかし実際に彼女がしゃべる普通話は四川西南官話の訛りがかなり濃い。彼女が普通話を話す背景を考えれば、その訛りは生活の中で自然に現れるリアル訛りだと考えられる。筆者は「四川会姉」の6つの動画（延べ語数：1886）を対象として発音の特徴を分析した結果、その音韻特徴は以下のようにまとめる。

声母表現12項目：「 $\text{ʃ} \rightarrow \text{s}$ 」52回、「 $\text{tʃ} \rightarrow \text{ts}$ 」82回、「 $\text{tʃ}^{\text{h}} \rightarrow \text{ts}^{\text{h}}$ 」19回、「 $\text{z} \rightarrow \text{z}$ 」11回、「 $\text{n} \rightarrow \text{l}$ 」23回、「 $\text{x} \rightarrow \text{f}$ 」9回、「 $\text{tʃ}^{\text{h}} \rightarrow \text{s}$ 」2回、「 $\text{s} \rightarrow \text{ʃ}$ 」3回、「 $\text{p} \rightarrow \text{p}^{\text{h}}$ 」1回、「 $\text{f} \rightarrow \text{x}$ 」2回、「 $\text{ts} \rightarrow \text{tʃ}$ 」1回、「 $\text{ts}^{\text{h}} \rightarrow \text{tʃ}^{\text{h}}$ 」1回。

韻母表現10項目：「 $\text{y} \rightarrow \text{o}$ 」41回、「 $\text{y} \rightarrow \text{e}$ 」11回、「 $\text{uo} \rightarrow \text{o}$ 」22回、「 $\text{i}\eta \rightarrow \text{in}$ 」18回、「 $\text{ə}\eta \rightarrow \text{ən}$ 」26回、「 $\text{an} \rightarrow \text{uan}$ 」1回、「 $\text{ei} \rightarrow \text{uei}$ 」2回、「 $\text{u}\text{ən} \rightarrow \text{ən}$ 」2回、「 $\text{ə}\eta \rightarrow \text{a}\eta$ 」1回、「 $\text{iau} \rightarrow \text{io}$ 」5回。

以上のように、四川会姉の発話の中で四川西南官話の特徴を表す項目は譚喬より多い。ところが一方で二人の発音の声母表現に共通点が見られる。まずは普通話のそり舌音 [tʂ], [tʂʰ], [ʂ] を発音する際、歯茎音になっている特徴が著しい。例えば：(本稿の用例後のカギ括弧内は話者の発音である。)

- 1) 给咱们广大的老百姓啊、传递了一种什么样生活的心态。[tʂʰuan] (インタビュー)  
民衆にどんな生活観を示唆したのか。
- 2) 你的手机里面有照片吗? [sou] [tʂau] (ティックトック)  
あなたのスマホの中に写真がある?

以上の用例中の「手」「照」「传」の普通話発音はそり舌音 [ʂou], [tʂau], [tʂʰuan] であるが、話者は [sou], [tʂau], [tʂʰuan] と発音している。さらに、ティックトックの話者は本来歯茎音 [ts], [tsʰ], [s] をそり舌音と発音している場合もある。たとえば用例3) において、「错」の普通話の声母が [tsʰ] であるが、話者は [tʂʰ] と発音している。このような歯茎音をそり舌音と発音する現象はインタビューで現れない。

- 3) 错过了以后就没有这个机会了。[tʂʰuo] (ティックトック)  
この機会を逃すと、二度とない。

ほかには譚喬と四川会姉の発話に普通話の e[ɤ] を [o] など四川西南官話のように発音しているケースが見られる。また普通話の ing[in] と eng[əŋ] の発音が in[in], en[ən] になっている特徴もある。この点も表2の(5)と(6)の示すように、四川西南官話では前舌母音 i[i], e[ə] の後に子音 -ng[ŋ] が現れないからだと考えられる。

#### 4.2. 「四川普通話2」の典型例及び音韻特徴

他地域の人から捉えた「四川普通話2」をよく表す一例として、1994年に放送されたシチュエーションコメディ『我愛我家』に登場する家政婦張鳳姑が挙げられる。『我愛我家』は賈志国と和平夫婦を中心とする北京の六人家庭の日常生活を描く作品で、その家で家政婦として雇われる張鳳姑(通称は小張)は四川人と設定されている。ドラマの中で張鳳姑は多くの場合に四川普通話を話している。物語のレベルで四川省出身のキャラクターが話す四川普通話であるため「リアル訛り」になるが、制作の状況を踏まえて考えれば状況が変わる。『我愛我家』の役者及び製作陣がほぼ北京出身であり、張鳳姑を扮する役者沈暢も河北省出身である。実際に劇中に張の四川普通話は当時北京でサービス業に従事する四川労働者の話す四川普通話を元しつつ、表現者による想像や創作の成分も入っている。そのため張の話す四川普通話は「ニセ訛り」だと考えられる。張の発話の中で普通話から逸脱特徴を以下のようにまとめる。

声母表現7項目：「ø → ŋ」67回、「ʂ → s」129回、「tʂ → ts」57回、「tʂʰ → tsʰ」33回、「z → ʒ」15回、「n → l」1回、「x → f」2回である。その内、「ø → ŋ」という表現は67回現れたが、「我」1語だけである。

韻母表現10項目：「ɤ → iau」1回、「ɤ → o」21回、「ɤ → au」2回、「ɤ → i」34回、「ɤ → e」2回、「ɤ-uo」5回、「uo → o」2回、「in → in」3回、「in → əŋ」1回、「a → æ」3回。

回数の示すように、ドラマの中の四川普通話において最も著しい特徴は話者がそり舌音の [tʂ][tʂʰ]

[ʂ][z] を歯茎音 [ts][tsʰ][s][z] と発音すること、及び自称詞「我」([uo]) を [ŋo] と発音することである。韻母の特徴表現は主に普通話の [ɤ] の発音場面に集中している。

ドラマの音韻表現はインタビュー及びティックトックと共通している声母表現は「ø → ŋ」、[tʂ → ts]、[tʂʰ → tsʰ]、[ʂ → s]、[z → z] 5項目であり、韻母表現は「ɤ → au」「ɤ → e」「ɤ → o」「uo → o」「iŋ → in」5項目が確認できる。しかし、ここで注目したいのは、ドラマで使われる「四川普通話2」は「四川普通話1」にない表現を表していることである。たとえば用例4)のように、ドラマでは普通話で [lɤ] と発音される語気助詞「了」を [liau] と発音することがあるが、実際に四川西南官話では「了」をこのように発音しない。

- 4) 我还就爱上他这了。[liau] (「我愛我家」第8話)

私は彼のそこが好きだ。

またドラマの中では普通話で [kɤ] と発音される漢字「哥」(3回)と「个」(2回)を [kuo] と発音する場面が見られるが、実際の四川西南官話では [ko] と発音される。このような発音表現は「四川普通話1」の資料において認められない。

- 5) 上次二哥胃疼，还是我买了两只烤鸭才治好的。[kuo] (「我愛我家」第34話)

前回兄さんの胃が痛かったとき、私が北京ダックを二羽買ってあげてようやく治ったんだ。

- 6) 你这计划有一百个呢。[kuo] (「我愛我家」第42話)

君のプランは百個もあるよ。

そして「ɤ → i」という表現は34回現れており、そのうち助詞「的」[tɤ] が [ti] と発音される場合が32回、「得」を [ti] と発音される例2回である。ところが、四川西南官話において、後者「得」の発音は [te] である。「四川普通話1」においてこの特徴が現れない。

- 7) 我只希望你能明明白白地对我说一句：你的心里有我，没得她！[ti] (「我愛我家」第8話)

私はただあなたが彼女じゃなくて、私が好きだって言ってもらいたい。

- 8) 等会儿！——吃冬瓜丸子汤怎么没得买香菜呀？[ti] (「我愛我家」第39話)

待って！冬瓜スープを作るのに、どうして買わなかったか？

一方、ドラマでは四川西南官話に見られる体系的な特徴に限られた単語と結びつく個別的な特徴になるという現象も認められる。例えば、「四川普通話1」二人の話者は「n → l」という表現が [n] 声母の漢字(难 [nAn]、能 [nəŋ]、呢 [nɤ]、那 [nA]) に体系的に現れる特徴であるのに対し、ドラマの話者は用例9)の示すように、「脑」[nau] という個別的な単語とのみ結びつく特徴になっている。

- 9) 你的后脑勺默默地告诉我：爱情已到了尽头。[lau] (「我愛我家」第8話)

君の後頭部が「恋は終わった」って語りかけてきた。

これ以外、10) ~ 12) のようにドラマの話者はすべて (173回) 普通話通りに [n] と発音している。

- 10) 那个包馄饨的是个老太婆。[nA] (「我愛我家」第8話)

あのワンタンを売っている人はばばあだ。

- 11) 难道他就是那个包馄饨的老太婆的私有财产？[nan] (「我愛我家」第8話)

彼はそのワントンを売っているばばあの私的財産なの？

- 12) 你们家人一个一个的都恨不能生活剥了我哟。[nən] (「我愛我家」第40話)  
あなたたち家族は全員私の皮を剥いて丸ごと食うぐらい私を憎んでいるのだ。

同じ傾向はドラマ話者の自称詞「我」[uo]の発音においても認められる。四川西南官話の「我」[uo]は[nɔ]と発音されるが、「四川普通話1」においてこのような発音はわずかにしか存在しない。つまり、ドラマは「我」[uo]を[nɔ]と発音することが四川普通話ではなく、四川西南官話の特徴を反映している可能性があると考えられる。四川西南官話では「ŋ」声母の語は「我」のほかに「愛」[ai]、「按」[an]「硬」[iŋ]など普通話の中では零声母の語に広く現れる体系的な特徴であるが、ドラマの中でその特徴が「我」だけに反映されており、[ai]、[an]の発音は普通話のように発音されている。

- 13) 我是舍不得你! [uo] (「我愛我家」第8話)  
あなたと別れるのは耐えられない。
- 14) 莫慌啰、谁知道明天你是否依然爱我呀? [ai] (「我愛我家」第8話)  
焦らないで、あなたが明日も私のことを愛しているのかは誰も知らない。
- 15) 大姐就给我5块钱,让我按国宴的标准准备晚饭,简直急死我。[an] (「我愛我家」第40話)  
姉さんはたったの5元をくれて国宴のように晩御飯を準備するように言いつけたので、私は死ぬほど焦っている。
- 16) 一年多我们俩硬是产生了感情啊。[ən] (「我愛我家」第40話)  
一年余りで私たち本当に感情が芽生えてしまったんだね。

例16)では話者が四川西南官話の「硬」の発音[nən]を模倣するとき、韻母の違いだけ注目しており、声母を変えていない。

そして「x → f」(2回)も同じである。話者は普通話の漢字「会」[xuei]だけを[fei]と発音している。

- 17) 你不会忘记他,也不会忘记我。[fei] [fei] (「我愛我家」第40話)  
あなたは彼のことを忘れず、私のことも忘れない。

以上の「四川普通話2」の話者の特徴をまとめて見ると、話者が声母のそり舌音を歯茎音と発音する表現及び韻母「ɿ → o」の表現が体系的に模倣できる。それ以外の表現は特定の単語「我」「腦」「会」などのみに現れ、さらに四川西南官話にない特徴も認められる。

#### 4.3. 「四川普通話3」の典型例及び音韻特徴

続いては四川人自身が言語という手段を通して地域色を強調する際に使う「ジモ訛り」としての「四川普通話3」について考察する。ここで一例として2020年の春節聯歡晩会に上演されたコント「喜欢你喜欢你」(私を好きになる君が好き)を取り上げる。

「喜欢你喜欢你」は肖戦が扮する歯医者、謝娜が扮する茶屋の紅娘に恋をし、二人が最終的に幸せな結末を迎えるラブコメディである。このコントに出演役者は全て四川と重慶出身で、そのうち三

人が四川訛りの普通話を話す。『央視新聞』が「小品《喜欢你喜欢你》集中了多位四川、重庆籍演员、融入使用独具特色的四川方言」（コント「私を好きになる君が好き」には四川、重慶籍の役者が数人起用されており、特色のある四川方言を使っている）と評されるほど、その言語使用は地域色が強調されている。そして「四川らしさ」に対する強調は役者の話す四川普通話の音韻特徴にも反映されており、その結果実際の言語能力の欠如から受動的に生まれる四川普通話とは一線を画する「ジモ訛り」となっている。具体的な表現は以下である。

声母表現9項目：「 $\emptyset \rightarrow \eta$ 」65回、「 $\text{ʃ} \rightarrow \text{s}$ 」102回、「 $\text{tʂ} \rightarrow \text{ts}$ 」58回、「 $\text{tʂ}^{\text{h}} \rightarrow \text{ts}^{\text{h}}$ 」14回、「 $\text{z} \rightarrow \text{z}$ 」9回、「 $\text{n} \rightarrow \text{l}$ 」17回、「 $\text{x} \rightarrow \text{f}$ 」10回、「 $\text{ɕ} \rightarrow \text{x}$ 」1回、「 $\text{ɕ} \rightarrow \text{tɕ}^{\text{h}}$ 」1回。

韻母表現12項目：「 $\text{ɤ} \rightarrow \text{o}$ 」56回、「 $\text{ɤ} \rightarrow \text{au}$ 」2回、「 $\text{ɤ} \rightarrow \text{i}$ 」1回、「 $\text{ɤ} \rightarrow \text{e}$ 」28回、「 $\text{uo} \rightarrow \text{o}$ 」29回、「 $\text{an} \rightarrow \text{æ}^{\text{n}}$ 」42回、「 $\text{i}\eta \rightarrow \text{in}$ 」16回、「 $\text{ə}\eta \rightarrow \text{ən}$ 」8回、「 $\text{ə}\eta \rightarrow \text{u}\eta$ 」1回、「 $\text{y}\epsilon \rightarrow \text{yo}$ 」12回、「 $\text{ai} \rightarrow \text{e}$ 」5回、「 $\text{y} \rightarrow \text{i}$ 」1回。（「 $\text{ɕ} \rightarrow \text{x}$ 」、「 $\text{ɕ} \rightarrow \text{tɕ}^{\text{h}}$ 」、「 $\text{an} \rightarrow \text{æ}^{\text{n}}$ 」、「 $\text{y} \rightarrow \text{i}$ 」という4項目は梁が指摘していないが、四川出身の筆者の経験では以上の変化が存在する。）

コントで現れている四川西南官話の特徴を持つ発音は「四川普通話1」の発音表現及び梁（1985）の指摘している四川西南官話の発音特徴にはほぼ合致している。また、「四川普通話3」において、そり舌音を歯茎音と発音することも最も目立つ特徴である。零声母語を「 $\eta$ 」声母と発音することも多く現れている。「四川普通話2」としてのドラマ話者の発音は四川西南官話にない特徴を表すこと（「 $\text{i}\eta \rightarrow \text{ə}\eta$ 」、「 $\text{ɤ} \rightarrow \text{uo}$ 」、「 $\text{ɤ} \rightarrow \text{iau}$ 」）に対し、「四川普通話3」としてのコント発音は「四川普通話1」よりも「過剰に」表現する点だと予想するが、実際にコントで現れる種類の項目数という面だけ見ると、ティックトックを超える現象は観察できない。本稿の資料に基づく分析の結果、同じな発音は四川西南官話の音韻特徴を持っている発音が現れる回数と現れない回数を計算し、表3と表4にまとめる。

表3. 四川普通話1と3の四川西南官話の特徴を示す声母表現及び割合

声母表現	インタビュー	ティックトック	コント
$\emptyset \rightarrow \eta$	4.35%	/	76.47%
$\text{ʃ} \rightarrow \text{s}$	23.71%	46.02%	82.26%
$\text{tʂ} \rightarrow \text{ts}$	31.11%	80.39%	81.69%
$\text{tʂ}^{\text{h}} \rightarrow \text{ts}^{\text{h}}$	27.27%	51.35%	58.33%
$\text{z} \rightarrow \text{z}$	/	34.38%	45.00%
$\text{n} \rightarrow \text{l}$	6.25%	18.70%	12.14%
$\text{x} \rightarrow \text{f}$	23.71%	18.00%	21.28%

表4. 四川普通話1と3の四川西南官話の特徴を示す韻母表現及び割合

韻母表現	インタビュー	ティックトック	コント
$\text{ɤ} \rightarrow \text{o}$	4.17%	42.71%	51.38%
$\text{ɤ} \rightarrow \text{e}$	14.81%	8.09%	32.56%
$\text{ɤ} \rightarrow \text{au}$	/	9.48%	4.00%
$\text{uo} \rightarrow \text{o}$	/	51.16%	63.04%
$\text{i}\eta \rightarrow \text{in}$	44.44%	69.23%	44.44%
$\text{ə}\eta \rightarrow \text{ən}$	14.81%	74.29%	25.00%
$\text{ai} \rightarrow \text{e}$	33.33%	/	62.05%
$\text{uən} \rightarrow \text{ən}$	33.33%	22.22%	/

インタビューとティックトック二つの内容もリアル訛りとしての「四川普通話1」に属するが、前者が声母表現及び韻母表現両方とも訛りが出る頻度が低い。これはティックトックの話者が普通話の習得度が低いからだと考えられる。声母表現の「 $\text{x} \rightarrow \text{f}$ 」と韻母表現の「 $\text{uən} \rightarrow \text{ən}$ 」についてインタビューの方は頻度が高いが、これは地域方言の差異による可能性が高いと推測される。

「四川普通話3」は「四川普通話1」と同じ声母表現が7つ見られる。その内、「 $\emptyset \rightarrow \eta$ 」、「 $\text{ʃ} \rightarrow \text{s}$ 」、「 $\text{tʂ} \rightarrow \text{ts}$ 」、「 $\text{tʂ}^{\text{h}} \rightarrow \text{ts}^{\text{h}}$ 」、「 $\text{z} \rightarrow \text{z}$ 」の5項目は頻度が最も高いのがコントの話者である。「 $\text{n} \rightarrow \text{l}$ 」およ

び「x → f」の2項目の頻度はそれぞれティックトック、インタビューの話者が高い。共通している韻母表現は8項目であり、そのうち「ɣ → o」、 $\text{「}\gamma \rightarrow e\text{」}$ 、「uo → o」、「ai → e」という4項目がコントの話者の方が頻繁に現れ、「ɣ → au」、「in → in」、「əŋ → ən」という3つの表現はティックトックの話者がより多用している。

特に注目すべきなのは、コントにおいて「 $\emptyset \rightarrow \eta$ 」と「ai → e」の割合がティックトックよりも遥かに高い点である。要するに、コントの話者は「 $\emptyset \rightarrow \eta$ 」、「ai → e」の発音変化を通じて、ティックトックの話者よりも四川西南官話の特徴をより頻繁に表現している。コントの演者の年齢が比較的軽く、職業が役者または司会者であるため、彼らが普段からかなり正確に普通話話す映像も確認できる。そのため、話者が普段よりも濃い四川普通話話すこと自体が地域性を演出するためと考えられる。

また、コントの中で四川普通話を使う役者の一人鞠婧祎は四川省遂寧地方の出身であるが、例18のように、彼女が舞台上で話す四川普通話において韻母[an]を[æ<sup>n</sup>]と発音している場面がある。周(2018)によれば、成都方言において、韻母[an]の中の[a]が発音されるとき、舌の位置が前寄りになり、末子音[n]が弱化しているため、[æ<sup>n</sup>]と発音される。したがって、この表現は成都方言の特徴と認められる。この特徴は遂寧方言にはないため、「ジモ訛り」としての四川普通話は四川西南官話の中にも特に成都方言に基づく可能性がある。

- 18) 我看你要不先把网上那个帖子给撤回算了。[suæ<sup>n</sup>] (コント「喜欢你喜欢你」)  
あのネットの投稿を削除したほうがいい。

もう一つ注目すべきなのはコントにおいて零声母の語を「 $\eta$ 」声母と発音する例が頻繁に認められることである。コントの中で65回現れており、その内「我」[uo]60回、「愛」[ai]4回、「暗」[an]1回である。この特徴は「四川普通話1」においてわずかにしか認められないが、普通話をより正確に話せる役者たちがこの特徴を意図的に強調するのは、会話の方言色をより分かりやすくするためだと考えられる。

- 19) 我不是说了吗、我不想谈恋爱。[ŋai] (コント「喜欢你喜欢你」)  
恋なんてしたくないって言っていたんじゃないか。  
20) 这朵粉红色的玫瑰花就是你们的暗号啊。[ŋan] (コント「喜欢你喜欢你」)  
このピンクのローズが君たちの暗号か。

## 5. 結論

四川普通話は3つのバリエーションが観察できる。普通話を話す需要から自然に生まれる四川人話者の訛り(リアル訛り)、四川以外の話者が四川と関連する人物像を作るため使う訛り(ニセ訛り)及び四川人話者は四川人としてのアイデンティティを強調するために使う訛り(ジモ訛り)が認められる。

3種類の典型的な音声資料を考察した結果は量の制限で完全に現実の状況を反映していると言い切ることにはできないが、「訛り」は方言と同様に、話者の意図によって異なる特徴を呈するという可能性を、四川普通話の音韻的側面に対する考察で示してみた。その結果を以下の表5と表6にまとめる。

声母表現において、そり舌音が歯茎音と発音される表現(「 $\text{ʃ} \rightarrow \text{s}$ 」「 $\text{tʃ} \rightarrow \text{ts}$ 」「 $\text{tʃ}^h \rightarrow \text{ts}^h$ 」)は三種

類の四川普通話に現れている。韻母表現においては主に普通話の [ɤ] の発音変化が多く見られる。

ドラマに話される「四川普通話2」の声母と韻母の特徴が計17項で、その内インタビューとティックトックの両方あるいは片方と重合する特徴は12項、重ならない特徴が5項ある。また重なる項目の中でも零声母の発音のように四川西南官話における体系的な特徴を特定の単語に限って使用する場合もある。このような特徴は話者に仮想され、「四川普通話2」のヴァーチャル的な特徴を表していると言える。

一方でコントに話される「四川普通話3」の声母と韻母の特徴は計21項あり、その内インタビューとティックトックの両方あるいは片方と重合する特徴は15項、重ならない特徴が6項ある。コントの方はドラマと異なり、四川西南官話にない要素が見られないが、インタビューとティックトックの話者（特に訛りがかなり濃いティックトックの話者）が話す「四川普通話1」に認められない特徴を取り上げている。また「四川普通話3」は「四川普通話1」と重なる特徴の中でも、[ŋ] 声母の使用のように頻度が明らかに高くなっている特徴が認められる。このような傾向は、「四川普通話3」の話者が表現する方言の音韻特徴を意図的に選択しているという可能性を示唆している。

そして本稿は「ニセ訛り」と「ジモ訛り」を指摘する際に主に「リアル訛り」との比較を軸にしているが、「ニセ訛り」と「ジモ訛り」の関係も興味深い問題が含まれている。表5と表6ではドラマとコントにのみ現れる特徴もいくつかあるので、四川人話者が地域的な要素を強調する際に他地域の人による「ニセ訛り」に影響される可能性も考えられる。この問題については稿を改めて考察する予定である。

表5. 四川西南官話の特徴を示す声母表現

話者 声母表現	インタビュー	ティックトック	ドラマ	コント
∅ → ŋ	○		○	○
ʂ → s	○	○	○	○
tʂ → ts	○	○	○	○
tʂ <sup>h</sup> → ts <sup>h</sup>	○	○	○	○
tʂ <sup>h</sup> → s		○		
ʐ → z		○	○	○
n → l	○	○	○	○
x → f	○	○	○	○
f → x		○		
s → ʂ		○		
ts → tʂ		○		
ts <sup>h</sup> → tʂ <sup>h</sup>		○		
ç → x				○
ç → tç <sup>h</sup>				○
p → p <sup>h</sup>		○		

表6. 四川西南官話の特徴を示す韻母表現

話者 韻母表現	インタビュー	ティックトック	ドラマ	コント
ɤ → iau			○	
ɤ → au	○		○	○
ɤ → o	○	○	○	○
ɤ → uo			○	
ɤ → e		○	○	○
ɤ → i			○	○
uo → o		○	○	○
iŋ → in	○	○	○	○
iŋ → əŋ			○	
əŋ → ən	○	○		○
əŋ → aŋ		○		
əŋ → uŋ				○
ai → e	○			○
uən → ən		○		
iau → yo		○		
yɛ → yo				○
y → i				○
a → æ			○	○
an → uan		○		
ei → uei		○		

## 注

- 1) 四川西南官話の陽平の調値は普通話と近いが、四川西南官話の話者として筆者は、陽平が「24」であると判断する。
- 2) ある特定の言葉遣い（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができるとき、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。（金水 2003: 205）
- 3) 「üo」は普通話のピンイン表記にない。
- 4) 「ø」はの零声母表記である。
- 5) 「e」は対応のピンイン表記がない。
- 6) 表2の（ ）内はピンイン表記であり、[ ]内は対応の国際音声表記である。

## 用例出典

ドラマ：『我愛我家』（1994）中国国際文化芸術中心．第1～42話

コント：『喜欢你喜欢你』（2020）『2020年中央廣播電視总台春節聯歡樂晚會』（<http://tv.cctv.com/2020/07/03/VIDEsYsox4gC93Ya4Qm63XCe200703.shtml> 閲覧日 2023.1.5）

インタビュー：『譚談交通』（[https://www.bilibili.com/video/BV11r4y1T7aX/?spm\\_id\\_from=333.999.0.0](https://www.bilibili.com/video/BV11r4y1T7aX/?spm_id_from=333.999.0.0) 閲覧日：2023.1.10）

ティックトック「四川会姉」：『教你制作漂亮視頻的新方法』（<https://www.douyin.com/video/7236941934877543695> 閲覧日 2023.7.5）

『人在發財前有什么征兆』（<https://www.douyin.com/video/7237059847932448035> 閲覧日 2023.7.5）

『悄悄告訴你一個秘密』（<https://www.douyin.com/video/7237453759373266216> 閲覧日 2023.7.5）

『一直牽挂你的人是誰』（<https://www.douyin.com/video/7238224385331563828> 閲覧日 2023.7.6）

『尋找生命中的貴人』（<https://www.douyin.com/video/7242652760049536308> 閲覧日 2023.7.6）

『与你分享更好的方法不開直播一樣可以掙錢』（<https://www.douyin.com/video/7246396588514364706> 閲覧日 2023.7.7）

## 参考文献

田中ゆかり『読み解き！方言キャラ』研究社．2021

王文虎「四川口音普通話的語音特徵」『四川大學學報（哲學社會科學版）』（3）．1994．56～61

金水敏『ヴァーチャル日本語役割語の謎』岩波書店．2003.205

河崎深雪「漢語“角色語言”探討—以中国方言電視劇為範本」『現代語文（語言研究版）』（10）．2010．

周岷「成都話的 /-en/、 /-an/ 在重慶話中的語音対応」『語源歴史論叢』2018. 77～88

梁徳曼『四川方言与普通話』四川人民出版社. 1985

廖存希・梁述・方雅琴「從川東方言語音看“川普”現象」『現代語文（語言研究版）』（12）. 2013. 24  
～27

馬真・橋本萬太郎・今井敬子・喜多山幸子・大田齋（1986）『西南官話基本文型の記述』東京外国語  
大学アジア・アフリカ言語文化研究所

「2020年“最暖心”春晚展現奮進新時代精氣神」『央視新聞』. 2020.1.25 (<http://news.cctv.com/2020/01/25/ARTIhdy5mWTme6PjiI7EQfsO200125.shtml>) 閲覽日 2023.6.30

## A Research on “Virtual Accent” in Sichuan Mandarin

LUO ZIHAO

This paper introduces the notion of “virtual accent” and utilizing this concept to classify “Chuanpu” (Mandarin with Sichuan accent) into three types based on the degree of speakers’ local awareness. It analyzes the differences in phonological features using representative visual materials for each type. As a result of the analysis, variations in the types and frequencies of phonological features were observed between natural “Chuanpu” spoken by local speakers, “Chuanpu” spoken by individuals from other regions, and deliberate “Chuanpu” spoken by local speakers to emphasize dialectal features. “Chuanpu” spoken by individuals from other regions demonstrates deviations from the southwestern Mandarin in Sichuan, while intentional “Chuanpu” spoken by local speakers exhibits differences in the frequency of features compared to natural “Chuanpu”. The findings of this paper suggest the possibility of varied phonological variations within the same dialect due to differences in intention.